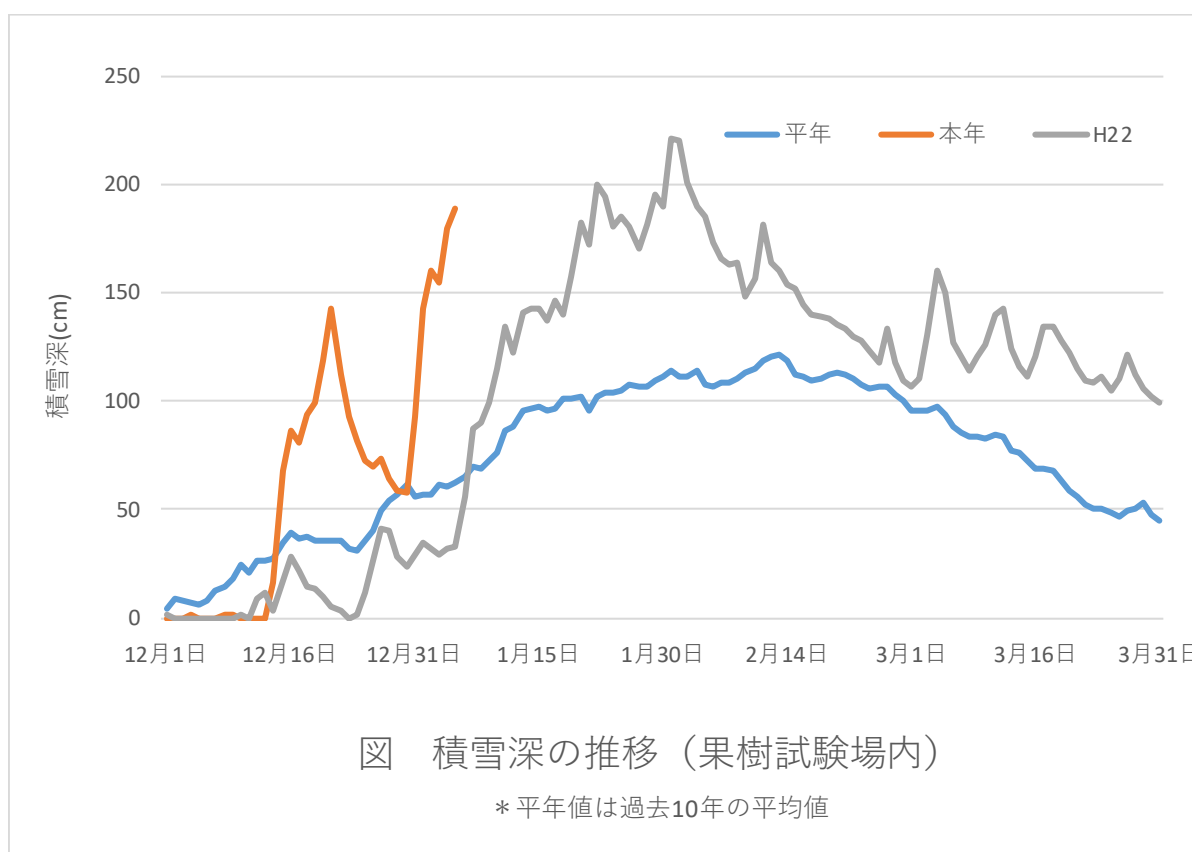


果樹の雪害対策

令和3年1月5日
果樹試験場

1月5日現在、果樹試験場（横手市）の積雪深は189cm(平年比302%)で、甚大な被害が発生した平成22年を上回るペースで積雪が増加している。

場内ほ場では枝折れのほか、オウトウハウス等の施設被害が確認されており、今週末には再度、大雪となる予報となっていることから、さらに被害が拡大することが懸念される。例年、2月上中旬が積雪のピークとなることから、継続的に雪害対策を実施し被害を最小限に止める。



◎樹体の保護

- ・降雪時には、こまめに果樹園に足を運び、雪が軽いうちに樹冠に積もった雪を払い落とす。
- ・樹上の雪は、気温上昇により融け、その後氷結すると、枝から雪が落ちにくくなるので、雪おろし作業は氷結する前に行う。
- ・融雪に伴い雪の沈降時に枝折れが発生するため、雪に埋まった枝の掘り起こしを行う

う。この時、掘り起こしが困難、作業が間に合わない場合は枝を切り落とし、被害を最小限とする。掘り起こし後は枝の下部や主幹部周辺を踏み固める。

- ・雪害によって枝が著しく裂開した場合は、被害枝をせん去し、傷口保護のため塗布剤を塗る。

◎施設の保護

- ・ブドウ棚は積雪が棚面を超えると棚全体の倒壊につながることから、遅れないよう計画的に作業を進める。棚上の冠雪を速やかに落とすほか、棚面と雪面の間隔を確保するために、必ず踏み固める。

- ・おうとうの雨よけハウスは、雨どい等に雪が溜まりやすいため、園地の見回りと早めの作業を心がける。

- ・いずれの場合も、雪が固くなると作業が困難になるので早めの実施が大切である。

◎消雪剤の活用

- ・消雪剤は、雪質をザラメ状にし、融雪時の沈降による枝の折損を抑制する効果がある。散布は、天気の良い日が1日以上続く日に、複数回行うと効果的である。使用する資材は、粒径が1～3mmの木炭を粉状にしたものとし、園内に均一に散布する。

◎その他

- ・現在、雪害回避に向けて、懸命な作業が続いているが、事故には十分注意し、必ず複数人で作業を行うとともに、携帯電話等を携行し、種々のリスクに備える。